

刑法

次の【事例】を読み、甲及び乙の罪責を検討しなさい。解答用紙は、表面(30行)のみを使用すること。

【事例】

1 半グレ集団に属する甲と乙は、Aが一人で暮らしている一軒家の自宅において、書斎のデスクの右側の引出しに、鍵もかけないまま数百万円の現金を保管しているという確かな情報を得た。その上で、Aが平日、所用で確実に留守をしている時間帯も分かったので、二人でその時間にA方に忍び込み、保管している現金を盗み出すこととした。甲は玄関扉の鍵を解錠するための道具を、乙は奪った現金を入れるためのカバンを準備した。

2 ○月×日、甲と乙は、Aが確実に留守をしているとされた時間にA方に向かい、甲が携行した解錠道具を用いて玄関扉を開き、二人はAの家の中に入った。二人とも書斎の場所が分からなかったため、これを探そうとしたが、ちょうどそのとき、所用を早めに終えてAが帰宅し、そこにいた甲と乙を発見して大声を出したので、あわてた甲と乙は、ここでつかまるわけにはいかないと考え、二人でAに近づき、乙がAの身体をつかまえ、甲がその顔面を思い切り手拳で数回、殴りつけてAを昏倒させ、二人はそのままAの家を出て、2キロメートルほど離れた、甲の住むアパートの近くまで帰ってきた。

甲と乙は、冷静になってみると、せっかく数百万円の現金を奪うことができるチャンスをみすみす逃すのは惜しいという気持ちになり、いっそAを殺した上で、書斎を探し、現金を奪うことを二人で決意した。甲が自宅アパートから果物ナイフ(刃体の長さ約10センチメートル)を持ち出し、これを乙に渡して、甲がA宅の外で見張りをしている間に、乙が家の中に入ってAを殺害するとともに現金を探し出してきて、後でこれを半々に分けることとした。乙がAの家の中に入ると、そこにはAがまだ倒れていたため、乙は甲のナイフを取り出してAの腹部を強く何度も刺した。その後、乙は、書斎を見つけてデスクの引出しの中に現金500万円を発見し、これを用意したカバンに入れて家の外に出てきて、見張り役の甲とともに現場から立ち去った。その後、甲と乙の二人は、奪った500万円を半分ずつ分け合った。

3 Aはその後、現場において死体で発見されたが、甲が顔面を強く殴りつけたことで生じた脳出血が致命傷となり、殴打後間もなく(したがって、甲と乙が再びA方に侵入する、ずっと以前の時点ですでに)死亡していたことが判明した。

(120点)